

その後、1879年の琉球処分（廃藩置県）で琉球王国が解体したことや、1945年の沖縄戦で戦前活躍していた役者や師匠たちを失ったことにより、組踊は大きな継承の危機に陥りました。しかし、沖縄の人々の心の拠り所として親しまれていた組踊は、沖縄の伝

命され、翌1719年の尚敬王の冊封式典の後に行われた宴で初めて組踊を創作して上演しました。忠孝ものの組踊は冊封使に好評を博し、1866年最後の冊封の時まで合計6回続けられました。また地方でも上演されるようになり、地域の芸能としても親しまれていました。

1718年、玉城朝薫が踊奉行に任命され、翌1719年の尚敬王の冊封式典の後に行われた宴で初めて組踊を創作して上演しました。忠孝ものの組踊は冊封使に好評を博し、1866年最後の冊封の時まで合計6回続けられました。また地方でも上演されるようになり、地域の芸能としても親しまれていました。

冊封使を乗せた船は、4月から5月に吹く南風を利用して琉球に到着し、北風（ミーニシ）に乗って帰路につく10月から11月頃までの約半年間を琉球で過ごしました。その滞在中、王府では冊封使をもてなす宴のために「踊奉行」という役職を設け、数多くの音楽、舞踊、演劇を仕立てました。

**組踊って
どうやってできたの？**



冊封使が新しい琉球国王に授ける王冠を携えて来たことから、冊封使の船を御冠船と呼び、冊封使を歓迎する宴で演じる芸能を御冠船踊としました。

今年5月に沖縄で初めて日本遺産に認定されたストーリー『琉球王国時代から連綿と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして「芸能」の構成文化財にもなっています。沖縄のみならず日本を代表する芸能として、今後の保存・振興そして継承が求められています。

統芸能にとって欠かせないものとなり、後継者たちのためゆめ努力と情熱によって復活し、継承されました。度重なる危機を乗り越えた組踊は1972年、沖縄が日本復帰すると同時に、我が国の優れた芸能の一つとして能楽、歌舞伎、文楽などと同様に国の重要無形文化財として指定されています。さらに、2010年にはユネスコの無形文化遺産条約に基づき、「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」へ記載されました。

INTERVIEW

琉球芸能の良さを 古典と新作でつなぐ

組踊は、基礎となる琉球舞踊がしっかりできていないといけない、前奏なしですぐに歌い出す歌三線も高い技術力が必要とされています。そんな琉球芸能の魅力が一体となった組踊を観ることで、それぞれの芸能の良さを知ることにもつながります。

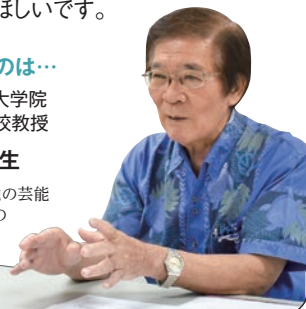
現在、古典の組踊は70数番ありますが、一方で新作組踊の創作も進んでいます。古典と新作は車の両輪であり、互いが存在することで新たな組踊文化が誕生していくと思います。歴史ある組踊をつないでいくために、ぜひこれからも続けてほしいです。

教えてくれたのは…

岐阜女子大学・大学院
沖縄サテライト校教授

大城 学 先生

組踊をはじめ、各地の芸能を研究。玉城朝薫の墓の調査にも立ち会った。



組踊の創始者 玉城朝薫ってどんな人？

『企画も踊りも音楽もなんでもできちゃうスーパースター!？』

朝薫は幼いころから音楽や舞踊を学び、薩摩に5回、江戸に2回赴き、日本本土の芸能を鑑賞しました。その際、歌三線だけではなく日本本土や中国の芸能を披露し、どこでも「日本之言葉」を使ってもよいと許可を得るほど、芸能や語学の才能に長けていました。踊奉行としては監督だけではなく新たな芸能の創作などをこなし、総合プロデューサーのような存在でした。

朝薫は沖縄土着の芸能や故事を基礎に、本土の芸能（能、狂言、歌舞伎等）、さらに中国の演劇にも影響を受けて組踊を創作しました。初めて上演した組踊は、「二童敵討」（護佐丸敵討）と「執心鐘入」。この他に「銘苅子」「女物狂」「孝行の巻」も創作し、これらの作品は〈朝薫の五番〉と称されています。朝薫の五番は、「組踊は朝薫に始まり朝薫に終わる」といわれるほど完成度が高く、多くの組踊の規範になっています。



浦添市前田にある玉城朝薫の墓（市指定文化財）
モノレールから入り口が見えますよ。



朝薫五番のひとつ「執心鐘入」

組踊の魅力に迫る

2019年は、組踊上演300周年の記念すべき年。
 沖縄の伝統芸能の一つである組踊は台詞（せりふ）を中心に、歌（音楽）、踊りで構成された沖縄独特の歌舞劇（演劇）です。
 浦添市には組踊の創始者である玉城朝薫のお墓や組踊をはじめとする伝統芸能の発信拠点「国立劇場おきなわ」があります。
 浦添市と縁が深い組踊が、初めて上演されてから今年で300周年を迎えます。今回の特集は琉球の誇る伝統芸能として、長年守り受け継がれてきた組踊を紹介します。

組踊の魅力と、楽しみ方を
わかりやすく紹介。
観たくなること間違いなし！

組踊 花売の縁（はなうりのえん）

夫婦・親子の愛情を描いた世話物（庶民の生活などを題材にした作品）の組踊の名作。

